

カービュー マーケットウォッチ (2009年8月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

軽を除く国産乗用車が1年ぶりに前年同月比がプラス！

09年7月順位	09年6月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	27,712
2	(2)	→	フィット	ホンダ	17,003
3	(3)	→	ヴェッツ	トヨタ	12,366
4	(4)	→	インサイト	ホンダ	10,210
5	(5)	→	パッソ	トヨタ	8,911
6	(6)	→	セレナ	日産	8,752
7	(8)	↑	カローラ	トヨタ	8,242
8	(10)	↑	ヴォクシー	トヨタ	8,230
9	(11)	↑	ノート	日産	7,931
10	(9)	↓	ウィッシュ	トヨタ	7,519
11	(7)	↓	フリード	ホンダ	6,928
12	(13)	↑	ティーダ	日産	6,785
13	(15)	↑	キューブ	日産	6,620
14	(14)	→	ノア	トヨタ	6,263
15	(12)	↓	デミオ	マツダ	6,082
16	(22)	↑	レガシィ	スバル	5,665
17	(17)	→	エスティマ	トヨタ	5,080
18	(21)	↑	ラクティス	トヨタ	4,527
19	(16)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	4,420
20	(18)	↓	スイフト	スズキ	4,319

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■軽を除く国産乗用車が1年ぶりに前年同月比がプラス！

軽乗用車はマイナスがひとケタ台に、輸入車も下落率が縮小

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した7月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体では37万2430台で、前年同月比は97.2%。マイナスになったのは12カ月連続だが、下落率は9カ月ぶりにひとケタ台となり、4カ月連続で減少。エコカー減税と新車購入補助金制度が下落傾向を押しとどめた形だ。特に3ナンバーの普通乗用車は11万8539台で、前年同月比は100.5%と1年ぶりのプラスに。5ナンバーの小型乗用車も14万7634台で98.6%とほぼ前年並みの売れ行きになっている。

輸入車と軽自動車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は25万3289台で前年同月比100.1%（日産デュアリスの輸入分含む）と、台数にして300台前年を上回り、1年ぶりのプラスとなった。メーカーごとの合計では、日産101.6%、ホンダ109.9%、スバル100.8%、レクサス106.0%と前年の販売台数を上回り、「プリウス」が2万7712台とダントツの2カ月連続乗用車No.1となったトヨタも前年の販売台数にあと35台までに回復するなど、はっきりと回復傾向を示す結果となっている。日産では「セレナ」、「ノート」、「ティーダ」、「キューブ」、「エクストレイル」、ホンダは「インサイト」のほか、「フィット」が前年を上回る売れ行きとなり、スバルでは5月にフルモデルチェンジした「レガシィ」が5665台で前年同月比198.3%と好調、レクサスは「HS250h」383台、「RX450h」763台と今年投入されたハイブリッドカーが人気を集めた。

また軽乗用車は10万6257台で前年同月比92.0%と8カ月連続の前年割れだが、下落率は5カ月ぶりにひとケタ台に回復。貨物車も廃車・代替え奨励金（スクラップ・インセンティブ）効果で特に軽トラックが16カ月ぶりに前年を上回り、軽自動車全体では14万1035台で、前年同月比92.8%となった。

その一方で輸入車（乗用車のみ）は、日本メーカー製を含む全体では1万2891台で前年同月比87.1%、海外メーカー製のみでも1万2142台で86.0%と、下落率は前月より2.8~4.1ポイント縮小したものの、依然としてふたケタのマイナスで、これで15カ月連続の前年割れ。海外メーカーブランド別乗用車ランキングトップ3のVW、BMW、メルセデス・ベンツも前年同月比86.6%、81.7%、75.6%と厳しい状況が続いている。

■ココも気になる！ その1

アイドリングストップ機構搭載のアクセラがマツダの今後のカギを握る

2カ月連続で2万台以上を売り上げた「トヨタ プリウス」、月平均で7777台と月間販売目標5000台を軽く上回る「ホンダ インサイト」をはじめ、「レクサス HS250h」、「RX450h」を含めた燃費性能に優れるハイブリッドカーが大人気。低迷していた国内市場の起爆剤となっている。まさにトヨタ、ホンダに先見の明があったわけだが、他メーカーも手をこまねいているわけではない。例えば燃費向上策の一つとして、新しいアイドリングストップ機構を採用し

た「マツダ アクセラ」も好調に売れているのだ。

フルモデルチェンジ直後の6月は2713台で前年同月比217.0%、7月も3826台で252.5%と、ミディアムクラスの5ドアハッチバック&セダンとしては絶好調。発売後1カ月の受注も7640台と月間販売目標2000台の約3.8倍を記録し、7月末時点では9300台と順調な滑り出しとなっている。受注の内訳は、5ドアハッチバックのスポーツが約7割、セダンが約3割。アイドリングストップ機構i-stop（アイストップ）搭載の2リッターモデルは全体の半分を占め、燃費に対するユーザーの注目度がうかがえる。またアクセラは海外名マツダ3として、順次海外市場に投入され、6月に発売されたオーストラリアではマツダ3として過去最高の月間販売台数を記録した。

マツダ全体では7月単月で1万5142台と、前年同月比88.6%、1~7月の累計で7万5335台、前年同期比70.9%と依然として苦戦しているだけに、受注が順調な国内はもちろん、輸出が本格化するアクセラ（マツダ3）の売れ行きは、今後のマツダを左右しそうな状況だ。

■ココも気になる！ その2

デザインコンシャスなイタリア車が輸入車を救う？

国産乗用車市場は、一気に盛り上がったハイブリッドカー人気とエコカー減税などの支援策により、なんとか一息つきそうな状況だが、輸入車市場はエコカー減税の対象車が日本独自の燃費基準をもとに設定されていることもあり、下落傾向から抜け出せないでいる。常に輸入車トップ3を形成してきたVW、BMW、メルセデス・ベンツでさえ、前年同期比で76.8%、69.6%、68.4%と大苦戦している。

そんななか、前年を上回る売れ行きなのがフィアットだ。7月単月では487台で、前年同月比218.4%、1~7月の累計でも2510台で、前年同期比175.3%と海外メーカーの中では群を抜く売れ行きとなっている。この好調を支えているのは、もちろん「フィアット500」。6月までの上半期のデータだが、フィアット全体の71.7%がフィアット500なのだ。195万円からというリーズナブルな価格設定や、ハイパフォーマンスモデルの「アバルト」など順次ラインナップを拡充してきた販売戦略もさることながら、輸入車ファンだけでなく、見る人を引きつけるキュートなデザインは、国産車にはない大きな魅力だ。

このほか、アルファロメオも7月は223台で、前年同月比119.9%と売れ行きを伸ばしている（累計では1324台、前年同期比90.2%）。これも5月に販売開始されたベイビーアルファこと、「ミト」が牽引していることは想像に難くない。このミトも、アルファロメオのブランド力やスポーティな走りに加え、個性豊かなスタイリングは魅力十分で、これが6速MT仕様しかない難点も包み隠してくれる。こうしたフィアット500、アルファロメオ ミトに共通する、輸入車ならではのデザインの力こそ、輸入車復権のカギを握っているはずだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
